



「第1回進路希望調査」のご提出、ありがとうございました。この進路希望調査を元に、7月上旬に行われる「教育相談」で担任とお子様の面談を行っていきます。保護者の皆様を交えたいいわゆる「三者面談」は、夏休みに行く予定ですのでお含みおきください。また、少しずつではありますが学校では「進路学習」の授業を学活や総合の中で行い始めています。今後も継続的に行っていきませんが、それを踏まえた上で自分の将来に向けたイメージを少しずつふくらませていてもらいたいと思います。前回の進路学習で話した内容をベースに「進路の基本内容」について掲載しますのでご確認ください。

## 進路の基本

### 1. 中学校卒業後の主な進路

- ①就職 ⇒ 公共職業安定所（ハローワーク）を通して、就職先を決めるのが基本。
- ②進学 ⇒ 高等学校・高等専修学校・工業高等専門学校（高専）・特別支援学校など  
※高等専修学校…いわゆる専門学校のうち、中学校卒業対象の学校。通信制高校と連携して、高卒資格が取れるところもある。  
(例：野田鎌田学園調理高等科・情報高等科、パリ総合美容専門学校など)  
※工業高等専門学校…5年間で高度な技術教育を行い、就職率も高い。準学士の資格も得られ、大学編入制度もある。(例：木更津高専)
- ③就職と進学 ⇒ 定時制高等学校、通信教育または企業内教育を受けながら働く。

### 2. 高等学校の種類

#### ◆課程別

- ①全日制…中学校のように、朝登校し夕方下校する、今まで通りの形。
- ②定時制…基本的に夕方～夜に登校し、通常4年で卒業。生徒の年齢層も様々。  
※午前部・午後部・夜間部のように時間を分けている学校もある（松戸南高校など）。
- ③通信制…基本は自宅学習、レポート提出、登校授業の出席、試験を通して単位を取得できる。  
★特に定時制・通信制は、義務教育とは違う生活になるので、より自分で自分をしっかりと律する力がが必要です。

#### ◆設置者別

- ①国立…主に国立大学の教育学部の附属になっている。ただし大学に入学する際には、他の人と同じように普通通り受験する。(例：筑波大学附属、お茶の水女子大附属)
- ②公立（県立・市立）…学費が安いのが魅力。近年は各学校とも特色作りに力を入れている。  
普通科は通える学区に制限があります。また、1校しか受験できません。  
※地域連携アクティブスクール…地域や企業の教育力を活用しながら「学び直し」や「実践的なキャリア教育」を行う。試験の形も他の公立校と異なる。(例：流山北高校)
- ③私立…各校の教育理念者と、特色ある教育を目指す。学費は国公立よりも高い。  
高校によっては、系列大学へ優遇して入学できる制度もある。

★公立も私立も各々メリットデメリットがあります。優先順位をきちんと考えられるといいです。